

第4回堺市水道ビジョン懇話会（議事概要）

- 1 開催日 平成27年10月30日（金）午後2時から午後3時
- 2 場所 上下水道局4階研修室
- 3 出席者 ○構成員（敬称略 順不同）
伊藤禎彦、鋤田泰子、林由佳、福岡勇
○上下水道局（所属順）
上下水道事業管理者、上下水道局管理監兼局次長、
上下水道局理事兼経営管理部長、営業部長、上水道部長ほか
○その他 傍聴者 2名、報道関係者 1名

4 議事概要

議題1 堺市水道ビジョン（素案）について

資料1 堺市水道ビジョン【概要版】（案）、資料2 堺市水道ビジョン（素案）について事務局説明

（鋤田構成員）

資料2の素案は、イメージが出てきて分かりやすくなったが、逆に疑問点も出てくる。例えば、資料2の44ページ「いのちを守る堺の水道への挑戦」についての図については、緊急時の応急給水を強化させることを狙いとしているかと思うが、堺市は給水車をどのくらい所有しているのか。また、強化させる必要はないのか。

（事務局）

応急給水車は、4t、2t車の他、小さいものを含めて7台保有している。その他緊急時にトラックに乗せる給水タンクを10数基保有している。また、給水車の保有体制の強化については、現在のところ具体的に何台追加するといった予定はないが、今後の状況に応じて強化についても検討していく。

（鋤田構成員）

7台ある給水車にはポンプは付いているのか。

（事務局）

7台のうち、4台は加圧式の給水車となっている。

（鋤田構成員）

ビジョンについては、局内での周知はされていると思うが、3月の策定までに局外の全部局への意見聴取は実施するのか。また、策定後はホームページ等で公表する予定か。

(事務局)

局内の意見については、局内パブコメを実施して、職員から70件の意見があり、うち36件の意見を反映させた。局外については、局長級の会議である庁議においてビジョン素案を報告し、意見をいただく。また、ビジョンの策定後は、ホームページに掲載し、市民の方にもご覧いただけるようにする予定である。

(林委員)

前回、概要版の課題に対し、実施する施策・事業にかかる投資額や数値目標とのリンクが分かりにくかったが、今回の資料では、矢印等ビジュアル的に分かりやすくなっており良い形になったと思う。ビジョン策定後は、5年後に見直すということだが、今後人口減少等経営上苦しくなると予想されるので、きちんとフォローアップして進めていただきたい。

(福岡委員)

素案作成にあたっては、関わった職員の努力もあり良いものができたと思う。今後は、ビジョンに基づきどのように事業を進めていくかという段階に移ると思うが、実施状況について定期的に評価するシステム等の構想があれば教えてほしい。

(事務局)

資料2の13ページの推進体制にあるように、各年度の実施状況については、毎年度アクションプランを作成し、年次評価をすることで進捗管理を徹底していく。また、ビジョン自体の見直しについては、社会情勢の変化を踏まえ、5年後に実施することとしている。

毎年度の年次評価については、アクションプランに基づく達成状況を公表するとともに、有識者など第三者からも意見をいただき評価するようなマネジメントシステムを構築していきたい。

(福岡委員)

目標を達成できるかどうかは、安定した財政基盤の確保が重要な要素である。年次評価においては、例えば、円グラフ等を活用することで、毎年の支出や収入などの状況が一目でわかるような形で評価してほしい。

また、目標を達成できるかは、全職員がこのビジョンを十分理解していかに日常の仕事をしていくかにかかっていると思う。担当部署以外の職員への周知は難しいと思うが、例えば、局内インターン制度も取組のひとつであろうが、研修等において、具体的な事例、例えば漏水事故があったときは、第1報はどこからきたか、何分後にどこの部署から何人出たか、現場ではどんな作業をして何分かかったか、周辺の住民からどんな意見があつてどう対応したかなど、具体的な事例をもとに研修することで、担当セクション以外の職員も共通認識をもってビジョンに取り組めるようになると思う。

(事務局)

局の組織体制について、水道ビジョン策定、下水道ビジョン改訂の初年度である来年度を「チーム上下水道元年」と位置づけ、改めて仕事のやり方を変えていきたいと考えている。来年3月までに、理念、行動指針、運営方針、毎年の業務方針等を記載した冊子を作り、他の部署がどのような目標を持って事業を行っているのかも含め、職員に周知徹底していきたい。そのために各部課のヒアリングを実施し、進捗状況、結果を評価していく仕組みを作って進めていきたい。

(事務局)

近年発生した事故の反省を踏まえ、危機感をもって事故発生時の対応力や技術力の向上を図ることを目的として、水道の職員と下水道の職員を交えた事故防止等検討委員会を4月に、設計・施工技術力向上ワーキングを6月に立ち上げた。事故防止等検討委員会は、実際の事故対応の記録を評価し、そのとき何をすべきであったか、水道事故については、下水道の職員が第3者から見ての議論をし、互いに共通認識を持つことにより反省を次に活かし、事故が起こった際にはいかに迅速かつ的確にリカバリーができるか、局内で密に議論を進めている。

また、設計・施工技術力向上ワーキングは、ベテラン職員が退職し、技術力向上が重要な課題になっている中で、例えば現場の監督をどのようにやっていけばいいのかについて、水道の職員と下水道の職員が意見交換を行い、局としてのベクトル合わせをしながら、局全体の技術力を向上できるよう議論している。

いずれも具体例に即してしっかり議論し取り組んでいる。

(伊藤座長)

ビジョンが策定された後の話題がでていますが、ビジョンの概要、本編そのものもブラッシュアップする必要があると思われる。

資料2の3ページの給水量の予測について、説明文では、給水人口を人口推計の下位値をもとに算出したとあるが、グラフの推計人口にある給水量では高位、中位、低位と記載されているので、説明文及び破線の中の用語とグラフの用語を合わせるようにしてほしい。

(事務局)

マスタープランにおける推計人口それぞれの上位値、中位値、下位値の数値に基づいて給水量を算出しているので折れ線グラフと棒グラフはリンクしている。説明文が誤っているので、表記を修正させていただく。

(伊藤座長)

お客さまとのパートナーシップの形成について、資料1①の「関係者間の連携」の中に「お客さまが経営に参画する仕組み」とあるが、経営を行うのは上下水道局であって、お

お客様が経営に参画するわけではない。資料2の35ページの課題の中にもあるように「お客様の意見・ニーズを事業に反映させる」ために、協働体制を強化し事業経営に活かす体制を作っていくという趣旨である。当然、経営自体は局が責任を持つので、概要版にある「経営の参画」や資料2の36ページの事業取組②の「お客様の経営参画の拡充」の表記についても、例えば、協働体制の拡充などとしたほうがなじむと思われる。

(事務局)

ご意見のとおり、表記を修正させていただく。

(伊藤座長)

前回の懇話会で、各事業の取組内容について目標値が記載されていたが、タイトルが目標値からすべてスケジュールに変更されている。目標値、スケジュールそれぞれが含まれるので適正な表現を考えていただきたい。また、資料1④の「主な事業取組と効果」にある「主な数値目標」のタイトルにおいても目標値を表しているものには「主な目標値」を記載する等整合性を図ってほしい。

(事務局)

ご意見のとおり、表記を修正させていただく。

(伊藤座長)

本日出た意見を踏まえ、ビジョン案を作成していただきたい。このビジョンによって堺市の水道事業が更に良くなっていくことを願っている。

(管理者)

委員の皆様には素案を作成するにあたって、多大なご協力を賜り厚くお礼を申し上げる。7月から4回にわたって本懇話会を開催してきたが、委員の皆様のご協力を得て、お客様に本市の水道事業を理解していただくうえで非常に分かりやすいビジョン素案が出来たと思う。今後、意思決定するまでに修正等あるが、このビジョンをもとにお客様に信頼される、元気で明るい局にしていきたいと思っている。

ビジョンでは人口減少など社会状況の変化や近年発生した事故への対応、また、今後更なる公民連携は非常に重要な鍵であると考えている。特に我々だけで事業を運営するのではなく民間の力も借りながら進めることが重要であると認識している。また、ビジョンでは3つの挑戦を掲げているが、それらに果敢に挑戦し、1年ごとの事業評価については、改めて委員の皆様の方々の今後の評価やご意見をいただきたいと思っている。

また、今回の10年間の水道ビジョンと、今後5年間の下水道については見直しをしているところであるが、来年度から「チーム上下水道元年」として上下水道事業を進めていく。委員の皆様には引き続きご支援ご協力を賜りたい。